

眼瞼腫瘍（がんけんしゅよう）

眼瞼腫瘍について

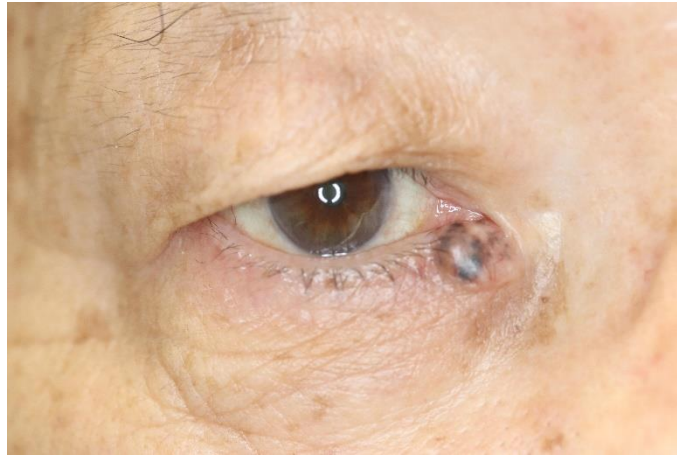
眼瞼に発生する悪性腫瘍は皮膚から発生する基底細胞癌やマイボーム腺から発生する脂腺癌、眼瞼結膜から発生する扁平上皮癌が主であり、本邦では基底細胞癌と脂腺癌の頻度が高いです。その他に頻度は低いが悪性黒色腫やMeckel細胞癌も認められます。

基底細胞癌

代表的な皮膚悪性腫瘍の一つであり、眼瞼、特に下眼瞼に好発します。比較的高齢者に多く紫外線暴露と関連が指摘されています。腫瘍は丈が低く、中心に潰瘍や出血を伴うことが特徴的です。色素沈着が見られ、黒色調を呈することが多いです。転移は非常にまれですが、局所再発の可能性はあるため適切な治療が必要です。

基底細胞癌の症例

図1 基底細胞癌



脂腺癌

眼瞼の脂腺であるマイボーム腺や Zeis 腺から発生します。主に 50 歳代以降に発生し、上眼瞼に好発します。悪性度が比較的高く、局所再発やリンパ節転移、さらには遠隔転移を認めることが多いのが特徴です。腫瘍は黄色調の結節状病変として眼瞼結膜や眼瞼縁に隆起して現れる場合と、びまん性の眼瞼肥厚や眼瞼炎、慢性結膜炎のような所見を示す場合があります、霰粒腫や慢性炎症と鑑別が難しいことがあります。

脂腺癌の症例

図2 脂腺癌

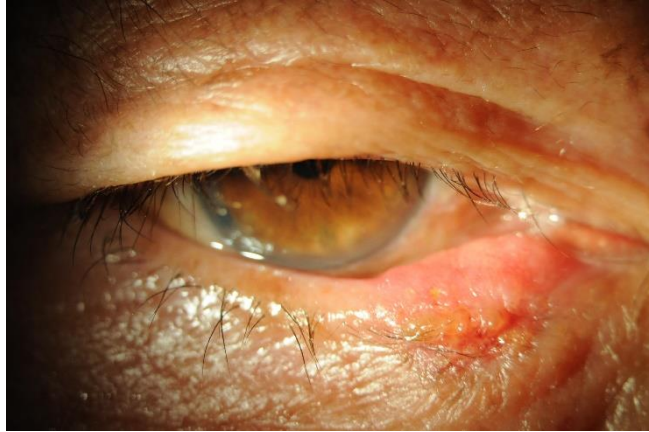


扁平上皮癌

扁平上皮癌は眼瞼皮膚よりも眼瞼結膜から発生することが多く、腫瘍の増大に伴い眼瞼皮膚側へ浸潤していきます。腫瘍表面の血管は基底細胞癌や脂腺癌ほど目立ちません。一部の症例では紫外線が関与するとされる日光角化症が悪性化したものと考えられています。腫瘍の外観は角化の程度によって異なり、白色、黄白色、または紅色を呈し、表面は粗造で不整な形状をしています。

扁平上皮癌の症例

図3 扁平上皮癌



診断・治療について

診断のためには、腫瘍の一部または全体を切除し、病理検査を行います。治療の第一選択が外科的切除です。腫瘍が眼瞼に局限している場合は眼瞼切除が行われますが、切除範囲に応じて眼瞼再建が必要となります。欠損部が眼瞼の1/3以下であれば縫縮可能ですが、それ以上の場合は再建が必要です。腫瘍が眼球結膜や眼窩内に浸潤している場合には、それぞれの部位に対しても切除術を検討することになり、眼表面の再建や眼窩内容除去術が必要となることがあります。腫瘍が切除不能な場合には、化学療法や放射線治療が治療選択肢となります。

執筆者

- 氏名： 小阪 満希
 - 所属医療機関： 名古屋大学医学部附属病院
 - 診療科： 眼科（眼形成）
-
- 氏名： 清水 英幸
 - 所属医療機関： 名古屋大学医学部附属病院
 - 診療科： 眼科（眼形成）